

第1回 豊橋市市民協働推進審議会 議事録

日時	平成24年6月4日(月) 10:00~11:30
場所	豊橋市役所 コミュニティルーム
報告者	鈴木啓靖
出席者	別紙のとおり
傍聴者	なし

1 開会

2 会長あいさつ

○議事録署名者 寺田康生委員、福岡吉彦委員

3 議題

(1) 今年度審議計画について

※資料1に基づき、事務局が説明

(2) 市民協働推進補助金追加募集について

※資料2に基づき、事務局が説明

委員： 先ほど予算が2,691千円残っているので追加募集をするという話があったが、昨年の追加募集の実績を見ると、件数は5件だけで金額は1,858千円だった。昨年の当初募集の実績が17件で2,193千円だったので、当初募集並みに件数を集めないと、昨年並みか、昨年より少ない件数と金額で終わってしまうのではないか。広報に掲載するだけでなく、事前にいろいろな団体にPRして集めないと、結果的に3件だけだった、などとなりかねない。

会長： それに関わってくるが、補助金の見直しがこの後の議題にある。申請件数が2年連続で減ってきているという現実があり、PRの方法も含めて検討の余地があると思う。

事務局： PRについては、報道発表やポスター掲示などの告知について、昨年は6月18日より行っているが、今年は10日ほど前倒しして周知の期間を設ける予定。

委員： やはり口で伝えるのが一番効果がある。私も団体に入っているが、募集していることを知らないことが結構あり、気づいた時には募集期間が終わっていた、ということも多い。いろいろな団体に声をかけることが大切。

委員： 広報とよはしの町内回覧を活用するのもいいと思う。

会長： これまで広報を活用した例はあるのか。

事務局： 広報は12万部ほど発行されており、威力はやはり大きい。先ほど説明したとおり、昨年よりも前倒しで早く動いており、昨年の追加募集では広報に間に合わ

なかったが、今年は掲載する。その他の媒体として、今年はティーズやFMとよはしでPRしたり、各団体へメールマガジンでPRして、広報などで見逃していた団体にも周知できるように力を入れていく。

委員： オレンジプラザからも、他のお知らせと一緒に直接団体に案内を送るなど、PRしていく。広報が7月1日掲載であれば、間をあけて7月15日頃に再度団体に直接PRするなど、応募状況によって2回ぐらい周知をしてもいいと思う。

委員： 広報の誌面は、どれくらいの大きさの記事なのか。小さいとあまり意味がない。

事務局： 24年度当初募集と同じくらいになると思う。

委員： 防災ラジオの申し込みの記事はすぐに反応があり、2日で終わってしまった。関心があれば小さな記事でも目にするが、関心がないと気がつかない。

会長： 広報の表紙の見出しに入れることができれば効果は大きいのでは。

事務局： 見出しに何を選ぶかは全体の中での判断になるが、目立つような工夫はしていきたい。

◇補助金追加募集スケジュールについて、各委員に確認した結果、次のとおり決定。

8月21日（火）午後 事前審査

9月11日（火）終日（予定） 公開プレゼンテーション

※時間は、応募件数により決定し、後日連絡

（3）市民協働推進補助金の見直しについて

※資料2に基づき、事務局が説明

会長： 次回7月の審議会では今行っているアンケートの結果を受けての審議となるが、今日は自由な意見交換をお願いしたい。

委員： 5月13日にオレンジプラザの交流会を実施し、補助金交付団体による報告会も行ったが、補助金についても自由に意見を言ってもらった。私が感じたのは、各団体がいい活動をしようとしても、費用の半分しかもらえないのがネックで、もう少し補助率を上げてもらいたいという意見が多かったと思う。また、単年度ではなく、2年にわたる補助金の制度があるといいという意見もあった。ハード補助金については、MINTO機構からの財源がなくなったらハード補助金自体もなくなってしまうのではなく、基準を下げてでも継続していくことを考えた方がいいと思う。

委員： 補助金を交付した団体に定期的にフォローはしているのか。

事務局： 事業報告はしてもらっているが、その後のフォローアップというのは具体的には行っていない。一度補助金を受けていて、続けて申請してくる団体には、その後の進捗状況というのは確認している。

委員： 1年後くらいまではオレンジプラザの情報誌で、活動紹介をするなどフォ

ローしている。

会 長： 申請件数の減少は、原因を大まかに分けると、①知らないから申請しない ②知っていても使い勝手が悪いから申請しない ③そもそも市民活動団体の数自体が減ってきている、の3つくらいかと思うが、事務局としてはどれに当てはまると感じているのか。

事務局： どすごいネットの登録団体自体は、着実には増えている。その中で申請件数が少ないのは、やはり使い勝手の面かと思う。手続きが面倒、ということもあると思う。

委 員： 補助金についてはその都度団体に直接案内を郵送しているので、大半の団体は知っていると思う。やはり申請書を書くという経験がないので書けない、ということが大きい要因だと思う。最初からあきらめて、書いてみようという所まで到達しない団体を、どうやって一歩前まで出て書いてもらうか、アドバイスをするかということがポイント。初めて応募する団体をいかに増やすかが、件数を増やすポイントになるのでは。

事務局： 24年度当初募集より、オレンジプラザでの事前相談日を設けており、書き方が分からないという団体にとっては、以前よりハードルは下がっている。

委 員： そういった団体はいいが、そもそも書くのもイヤ、という団体に対してどうPRするかが大切。以前オレンジプラザで申請書の書き方の講座を開催したが、関心がある団体は出てきてくれる。申請書の書き方はそんなに難しくないんだよ、ということをどこかでPRする必要がある。

委 員： 様式、記入例が難しいのでは？ 記入例を見て書かなければいけない書類だと、書くのがイヤになるという面もある。

事務局： 様式について、中身が難しいということであれば項目の見直しということも絡んでくる。特に様式4は、事業の公益性、先駆性、団体の特性発揮度など各項目も難しい言葉で表現されているため、そういったものを見直しすると少しなじみやすくなるかもしれないので、次回いろいろ案を提案していただければと思う。

委 員： MINTO機構の1千万円について、1回限りのものなのか、再度申請すればもらえるものなのか。

事務局： その点は確認しておく。

会 長： 可能であれば、他市の状況、活動が盛んな市ではこんな仕組みでやっているという情報を、次回の審議会を出してもらえるとありがたい。

4 報告

(1) 平成24年度市民協働推進事業の進捗状況について

※資料4に基づき、事務局が説明

委 員： 校区市民館と地区市民館の違いについて、市民には何をやっている所かが

分かりにくいですが、どういう役割の違いあるのか。

事務局： 地区市民館は、中学校区単位で設置されており、生涯学習の講座などが開催されている。校区市民館は小学校区単位で設置され、まちづくりの拠点となるような施設で、地域のいろいろな話し合いを行ったり、自分たちを高めるためのサークル活動を行っている。ただ、地区市民館でもサークル活動を行っているので、違いが分かりにくいかもしれない。

委員： 使い勝手のいい校区市民館と使い勝手の悪い校区市民館がある。また、午前中は頼まないと開けてもらえないし、誰がカギを管理しているのかが分かりにくい。

会長： 11番の地域人材育成講座について、これはファシリテーター養成講座のような内容か。

事務局： 23年度は一般的な講演会を実施した。

会長： 例にあげたファシリテーターのように、リーダーの方には会議の進め方のような知識・スキルを知っておいてもらいたいということもあるので、少し専門的になってしまうかもしれないが、もう少し踏み込んでそうした講座も検討してほしい。

5 その他

次回：平成24年7月17日（火）9：30～ コミュニティルーム

6 閉会

平成24年7月17日

議事録署名者

寺田 康生 ㊞

福岡 吉彦 ㊞

第1回豊橋市市民協働推進審議会出席者名簿

NO	氏 名	選 任 区 分
1	あおき あきこ 青木 晶子	公募 (とよはし女性フォーラム)
2	いとう まりこ 伊藤 麻里子	国際交流協会から推薦 (CSN豊橋代表(愛知大学4年))
3	いわさき まさや 岩崎 正弥	学識経験者 愛知大学地域政策学部教授
4	すずき としい 鈴木 稔依	豊橋商工会議所女性会から推薦 (豊橋商工会議所女性会会長)
5	せがわ ちとし 瀬川 千敏	公募 (豊橋防災VCの会)
6	てらだ やすお 寺田 康生	市民センター指定管理者から推薦 (NPO法人 NPO愛知ネット)
7	ふくおか よしひこ 福岡 吉彦	豊橋市社会福祉協議会から推薦 (豊橋市社会福祉協議会職員)

※夏目章一委員は欠席

《事務局》

市民協働推進課 課 長 金子 尚央
主 幹 中山 久美子
課長補佐 河合 幸子
主 査 内藤 政宏
主 査 中澤 浩英
主 査 吉田 節子
主 事 鈴木 啓靖